

令和7年度事業の実施状況について

■評価基準 ※今回の自己評価は「見込み」

(A)既に達成(100%以上) (B)順調(80~99%) (C)やや遅れている(50~79%) (D)遅れている(0~49%)

事業名	生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業				評価	B
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等						
(単位：千円)						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額	
783	0	783	783	0	0	
1 主な事業の実施状況						
(1) 学校図書館関係職員の能力向上に資する研修						
区分	内容			開催日等	参加人数	
学校図書館活用教育普及講座	【テーマ】GIGAスクール時代の学校図書館の極意～子どもの探究が確実に変わる～ 【対象】各学校の管理職、学校図書館関係者(司書教諭、学校司書、学校図書館担当職員) 公共図書館職員、市町村(学校組合)教育委員会学校図書館担当者等			①8月5日(西部) ②8月6日(東部) ③8月6日(配信)	①62名 ②38名 ③23名	
学校司書のためのICTスキルアップ講座	【内容】講義：Canvaの仕組みと基本的な操作について 演習：Canvaの基本的な操作 【対象】小・中・義務教育学校・高校・特別支援学校に勤務する学校司書			①5月27日(東部) ②5月28日(中部) ③5月29日(西部)	①45名 ②25名 ③30名	
学校図書館司書研修会	【テーマ】授業で役立つ学校図書館になろう～学校司書ができること 【対象】高等学校・特別支援学校図書館関係者、教職員			12月19日	22名	
学校図書館司書実務研修会	【内容】「学校図書館の可能性」/「図書館オリエンテーション」実践例 【対象】高等学校・特別支援学校図書館関係者、教職員			①7月25日 ②2月20日	①24名 ②21名	
学校図書館支援員派遣・訪問事業	市町村立図書館、教育委員会、県立学校等の要望に応じて県立図書館職員が出向いて研修を実施。 (派遣先)大山町立図書館、倉吉市立図書館、南部町司書研修会等			延べ8回 研修を実施	262名	
教育センターとの連携	県教育センターが行う司書教諭研修で学校図書館支援員が講師を務めた。また、学校図書館に関する専門研修の講師選定に学校図書館支援員が参画した。			司書教諭研修 6月28日	133名	
(2) 全国大会鳥取県予選高校生ビブリオバトル大会						
県内高等学校の司書が協力して全国高等学校ビブリオバトル(※)大会の県予選として開催し、代表者1名を選考した。						
開催日：12月14日 出場者数：11校・16名 参加者：95名						
※ビブリオバトル：本の魅力を紹介し合い、もっとも読みたいと思う本を投票で決める書評ゲーム。						
チャンプ本『コーヒーが冷めないうちに』(川口俊和/著、サンマーク出版)						
発表者：鳥取東高等学校2年 竹中芽生氏						
(3) 司書企画事業						
ア「高校生にすすめたい本リスト2025」作成						
高校、特別支援学校の学校図書館職員による高校生へのおすすめ本32冊を掲載したリストを作成し、電子データとして県内の高校・特別支援学校へ送付した。あわせて県内市町村立図書館や大学図書館等にも紙のリストを提供した。						

イ「探究ガイド～情報の整理・分析に役立つワークシート～」、「教員向け図書館活用ツール」作成

学校図書館が授業の役に立てるよう、思考整理や参考文献のリスト化ができるワークシートを作成し、各学校に提供した。また、教員が、どのように図書館が授業(本年度は「家庭総合」)に関われるのか、図書館を活用することで授業がどのように充実するのかをまとめ、紹介したツールを作成予定している。(今年度内の提供を予定)。

(4) 授業活用選定用見本図書の貸出

学校や各市町村立図書館に見本図書を6セット貸出した。また、全点購入の新刊児童図書(選定用)を希望に応じ閲覧、貸し出した。(3,985冊 ※令和8年2月4日現在)

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 成果

- ・ICT活用や読書バリアフリー推進など、教育の最新動向を反映した内容で研修を企画した。講師が「マルチメディアデジ図書」等の紹介を行ったことで、「紙以外の資料の提供の仕方」など読書バリアフリー環境整備の啓発にもつながった。あわせて会場にバリアフリー図書の展示も行うことで、受講者の関心をより高めることができた。
- ・学校図書館司書から要望のあった、研修を対面だけでなく配信するハイブリッド形式での実施や東・中・西部3会場で同じ内容の研修等を行い、より多くの参加を可能にした。
- ・講座を受講することで得られた知識や技術を、掲示物作成など、学校図書館運営の実務で活用する事例が多く見られた。
- ・各学校図書館を訪問し、展示の仕方や委員会活動の取組などの事例を収集した。これらを他の研修で紹介することで、県内の学校図書館へ好事例を広めることができた。
- ・学校訪問や研修会でのアンケート、日頃からのやり取りで、現場の困り感や課題を把握し、研修会の内容に盛り込んだり、「司書企画事業」を通して課題の解決に努めたりするなど現場に寄り添った支援体制を維持した。
- ・市町村立学校職員等を対象とした研修への講師派遣を継続。学校図書館の授業利用だけでなく、「郷土資料の収集と保存」、「読書バリアフリーについて」など県立図書館司書の専門性を伝える研修を行った。

(2) 課題

- ・誰もが利用しやすい学校図書館の環境づくりや、多様な資料の整備や支援サービスの工夫などが求められている。読書バリアフリー推進の啓発と、既に取組んでいる学校の事例を他校にも広げるための各教育局、市町村教委との更なる連携が必要である。
- ・学校図書館の「学習・情報センター」としての機能、学校司書や司書教諭の役割、学校図書館にできることなどが校内で十分に理解されていない。学校図書館側から積極的に発信する必要がある。
- ・学校司書だけでなく、司書教諭も学校では一人職であり、各校での課題解決やスキルアップが困難である場合が多い。司書教諭同士の研修や情報交換、司書と一緒に学ぶ機会、相談窓口などが必要である。
- ・普通高校の学校司書も多様な生徒がいる現状であり、特別支援学校図書館への関心は高い。特別支援学校図書館司書も学校図書館の業務に関しての学びの場が欲しいという思いがある。校種に拘らない連携や情報交換が必要である。

事業名	デジタル化時代の知の拠点づくり事業				評価	B
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等						
(単位：千円)						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額	
25,437	0	25,437	25,437	0	0	
1 主な事業の実施状況						
＜令和7年度事業に関すること＞						
(1)「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施						
・電子書籍サービス及びデジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」(以下「とりデジ」という。)を全県的に普及・利用促進するため、出前図書館・イベントを実施						
実施日	8月18日	10月12日	11月14日	11月22日		
行事名	鳥取県図書館大会	風紋祭	鳥取県社会教育振興大会	ちえの森ちづ図書館開館5周年事業		
会場	米子コンベンションセンター	鳥取大学附属図書館	米子コンベンションセンター	ちえの森ちづ図書館		
対象	図書館関係者	学生、教職員、一般	一般	一般、図書館関係者		
来場者数	250名	191名	27名	37名		
(2)「資料デジタル化研修」の実施						
日時：令和8年2月12日、13日						
会場：エキパル倉吉						
参加人数：19名(県内図書館・博物館等関係者)						
内容：冊子資料、立体資料を対象とした資料デジタル化に関する講義及び撮影実習						
＜電子書籍サービスに関すること＞						
(3)電子書籍サービスの運用						
・利用できる電子書籍：Kinoden(紀伊國屋書店)						
・利用可能冊数：専門書、学術書、英語多読用資料等 3,521冊(令和7年12月末現在)						
・アクセス件数(令和7年4月～12月)：17,992件(1日あたり65.4件)						
・総アクセス件数(令和6年1月～令和7年12月)：42,561件(1日あたり58.2件)						
・県立図書館のカード保有者だけでなく、市町村立図書館や学校図書館のカード保有者も利用可能						
(4)電子書籍サービスの広報						
・『とっとりNOW第148号』(令和7年12月発行)への記事掲載						
・県主要事業との連携およびPR(大阪・関西万博、とっとり手話フェス、産業未来フェス等)						
・美術館企画展との連携およびPR(「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」「The 花鳥画ー日本美術といきものたちー」)						
＜「とりデジ」に関すること＞						
(5)「とりデジ」の運用						
・公文書館、美術館、埋蔵文化財センター、図書館、博物館の5館の資料を公開 …令和8年3月1日にリニューアル						
・公開データ件数：約69万件(うち図書館：約21万5千件)						
・アクセス件数(令和7年4月～12月)：約42万5千件(うち図書館：6万9千件)						
・累計アクセス件数(令和3年3月～令和7年12月)：約190万件(うち図書館：約25万4千件)						
(6)資料デジタル化の推進						
・郷土資料のデジタル化(第2次五か年計画の3年目) 令和7年度デジタル化資料(和本、絵画等 116点)						
(7)「とりデジ」の広報・研修						
・郷土人物をテーマとした企画展示開催時に「とりデジ」内の郷土人物情報へのリンクを貼付						
・「とりデジ」掲載資料を題材とした館内くずし学勉強会を開催(令和8年2月)						

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 成果及び効果

- ・令和8年3月に「とりデジ」のシステム更新を行い、利用者の利便性の向上のため、検索方法やデザインを刷新した。
- ・「鳥取県電子図書館普及キャラバン」の実施により、非来館者層を含む多くの方に電子書籍サービス及び「とりデジ」を広報することができた。また、キャンペーン会場では個人情報の適切な管理と利用登録手続の利便性を図るため、「とっとり電子申請サービス」を活用したペーパーレスによる利用者登録を新たに開始した。
- ・「とりデジ」の令和7年12月までのアクセス件数は約190万件(うち図書館資料へのアクセス累計は約25万4千件)となり、年々アクセス数が伸びている。
- ・昨年度に引き続き、郷土資料のデジタル化を進めた。
- ・資料デジタル化研修は委託で行ったが、受託企業から「撮影実習に特化した全県集合型研修」の実施例はこれまでになく、今回の研修内容は全国モデルとなり得るものと伺った。資料のデジタル化に着手していない機関からの参加者もあったが、講義・演習をとおしてデジタル化に必要な基礎知識を習得するとともに、資料のデジタル化の必要性や重要性を確認する機会となった。

(2) 課題

- ・電子書籍サービスと「とりデジ」の認知度をさらに高めるため、新規利用者の開拓が見込まれる大学や商業施設での出前図書館の実施等、図書館の枠組みにとらわれない広報手段を検討する必要がある。
- ・電子書籍サービスがあらゆる利用者に対応しより使いやすいものとなるよう、音声読み上げ対応コンテンツを充実させるとともに、利用者の意見を伺いながら引き続きアクセス改善に取り組む必要がある。
- ・デジタル化資料の調べ方を紹介したデジタルパスファインダー等を作成し、県民の教育・文化・観光・研究等への利活用を推進する必要がある。
- ・市町村立図書館や大学図書館等、関連機関との連携を進め、「とりデジ」コンテンツの充実に順次取り組む。
- ・資料のデジタル化を推進し、貴重な財産を後世へ確かに継承する体制を構築するため、資料の適切な保存管理及び利活用等の実務を担う職員の専門性向上を図る必要がある。

事業名	仕事とくらしに役立つ図書館推進事業(くらしに役立つ図書館推進事業)	評価	A
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等			
(単位：千円)			
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額
7,780	0	7,780	7,780
			翌年度繰越額
			0
			不用額
			0
1 主な事業の実施状況			
(1) 読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業			
ア 鳥取県読書バリアフリー計画の改訂 5か年計画の最終年を迎える現行計画について、改訂に向けた検討を行うとともにパブリックコメントを実施し県民から意見を聴取した。			
イ 鳥取県読書バリアフリー推進に係る関係者協議会の開催 「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」の改訂に向けて、事業・取組の評価や関係団体等からの意見聴取を目的として、年4回開催した。			
ウ アクセシブルな書籍等所蔵数(数値は各年度12月末現在) 令和7年度 18,791点 令和6年度 18,349点(前年比442点増)			
エ アクセシブルな書籍等貸出数(数値は各年度12月末現在) 令和7年度 13,918点 令和6年度 14,683点(前年比765点減)			
オ 普及・啓発のための障がい者サービス用機器の整備・充実 携帯助聴器1台、リーディングルーペ4個、リーディングトラッカー10個、筆談用デジタルメモパッド1台			
(2) くらしに役立つ図書館情報発信事業			
ア 高齢者等対象の「デジタル機器を利用した情報収集講座」の開催 市町村立図書館との共催により、高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレットを利用した情報収集方法について学ぶ講座を開催した。 2月7日 南部町立図書館(参加者10名) 3月4日 鳥取県立図書館(参加者2名)			
イ 医療・健康情報の提供 鳥取県医師会、県立中央病院の講座や関係課・機関と連携した展示を行い、医療・健康に関する情報入手の場として、図書館という選択肢のあることを周知した。			
ウ とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加 県立図書館と県内市町村立図書館から成る鳥取県公共図書館協議会として、県孤独・孤立対策課が所管する孤独・孤立支援に関する官民連携組織(とっとり孤独・孤立プラットフォーム)に参加し、継続的に情報共有を行った。			
エ 法情報・困りごと解決支援情報の提供 行政書士会・司法書士会との共同による相談会、労働セミナーを開催した。 会場：県立図書館、23回開催、計220名参加			
(3) 図書館で「すくすく子育て」応援事業			
ア 託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」の実施 幼児子ども連れで来館する利用者が、ゆっくり図書館を利用できるよう託児サービスを実施した。 実施日時：毎週水曜午前9時15分～11時45分 利用者数：延べ23名(12月末時点)			
(4) 豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業 子どもの読書活動推進を図るため、市町村立図書館職員、学校図書館関係者等、子どもと子どもの本に関わる人々が、継続的に研修できる機会を提供した。			
ア 児童サービス専門講座の開催			
内容		開催日等	参加人数
【テーマ】本と心のバリアフリー 病気の子どもや障がいのある子どもへの本の届け方 【講師】塚田 薫代氏(元静岡県立こども病院医学図書室司書) 【対象】県内の公共図書館関係職員、病院図書室関係職員、学校教職員(学校司書、司書教諭、教職員等)、幼稚園・認定こども園・保育所の職員等		9月26日	37名
イ 児童サービス実務研修の開催 県立図書館職員等が講師を務め、児童サービスの基礎について実践的に学ぶ研修を市町村立図書館との共催で実施。			
テーマ	対象・会場	開催日等	参加人数
わらべうた、乳幼児への読み聞かせ	【対象】市町村立図書館職員等 【会場】北栄町図書館	7月3日	26名
児童サービスに関する情報交換	【対象】市町村立図書館職員等 【会場】大山町中山温泉館・生活想像館	12月5日	— ※諸般の事情により中止

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 読書バリアフリー推進・普及のための図書館サービス事業

ア 成果

- ・令和7年度に計画の最終年を迎える鳥取県読書バリアフリー計画について、取組から得られた成果と課題を整理し、当事者、関係団体等と意見交換しながら改訂作業を進めることができた。
- ・ラジオや新聞等を通じ、読書バリアフリーについて当事者や広く県民一般へ向けた周知・啓発を実施した。
- ・「子どものための福祉機器展」等関係団体の行事で出前図書館を実施し(令和8年2月末現在12回実施)、情報発信と連携の強化につながった。

イ 課題

- ・令和7年度末に改訂を行う鳥取県読書バリアフリー計画について、当事者、関係団体等と意見交換しながら事業の進捗状況を管理し、取組を改善していく必要がある。
- ・会議や関係団体の訪問の機会をとらえて現状やニーズを把握し、読書バリアフリー関連施策を充実する必要がある。
- ・市町村立図書館や関係団体との連携を強化し、読書バリアフリー・障がい者サービスの一層の周知啓発と利用促進を図る必要がある。

(2) 暮らしに役立つ図書館情報発信事業

ア 成果

- ・高齢者等を対象とした「デジタル機器を利用した情報収集講座」を市町村立図書館と共催し、図書館資料の検索方法や電子書籍の閲覧方法等を学んでいただき、図書館資料の活用を促進するとともに、高齢者等の情報活用力の向上につながった。
- ・展示等を通じて、様々な医療・健康情報を提供することができた。
- ・とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームへの参加や連携展示などを通じて、関係機関との連携を進めることができた。
- ・相談会、セミナーの共催により、法情報・困りごと解決支援のニーズを把握することができた。

イ 課題

- ・情報の収集方法や図書館サービス・機能を周知することにより、県民の暮らしの課題解決に役立つ情報入手しやすい環境を充実させる必要がある。
- ・県内のニーズ・実態を把握し、市町村立図書館・関係機関との連携によるサービスの充実と利用促進を図る必要がある。

(3) 図書館で「すくすく子育て」応援事業

ア 成果

- ・託児サービス「託児で来(らい)ぶらり」を実施し、幼いお子さん連れの利用者の方にゆっくりと調べ物をしたり本を選んだりしていただくことができた。
- ・「子育て応援コーナー」を児童図書室に設置し、子育てに必要な情報を1か所で提供することができた。

イ 課題

- ・当館の子どもと本をつなぐ取組や子育て応援サービスについて、継続して周知を図り利用を促す必要がある。

(4) 豊かな心をはぐくむ子どもの読書応援事業

ア 成果

- ・「児童サービス専門講座」は、「病気の子どもや障がいのある子どもへの本の届け方」をテーマに、病気の子どもや障がいのある子どもへの対応や本を通じた関わりについて学び、理解を深める貴重な機会とすることができた。
- ・「児童サービス実務研修」は、特に児童サービスの経験年数が少ない担当する職員を対象とし、実践や意見交換を通じて互いに学び研鑽し合うことで、児童サービスへの理解が深まり、県内各図書館における子どもの読書活動推進のための取組みを支援することができた。

イ 課題

- ・当館の子どもと本をつなぐ取組について、改めて周知を図り利用を促す必要がある。
- ・社会情勢の変化等を踏まえながら、市町村立図書館や学校をはじめとする関係機関や団体等と連携を図り、子どもの読書活動を推進するための取組みをさらに進める必要がある。

事業名	仕事とくらしに役立つ図書館推進事業(図書館ビジネス支援推進事業)	評価	A		
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額
7,780	0	7,780	7,780	0	0
1 主な事業の実施状況					
(1)「新規就農者のための情報収集セミナー」の開催(令和8年3月1日)					
<ul style="list-style-type: none"> 講演「新規就農者が意識して収集すべき情報源とその活用法」 講師：菊池健司氏(株式会社日本能率協会総合研究所MD B事業本部エグゼクティブ・フェロー) 先輩農家からの応援メッセージ 事例1 発表者 村岡佑基氏(北栄町・(有)村岡オーガニック代表取締役) 事例2 発表者 唐崎大義氏(湯梨浜町) 事例3 発表者 吉岡大輔氏(米子市) 情報提供1 「鳥取県の就農支援策」 講師：鳥取県農林水産部経営支援課職員 情報提供2 「図書館を活用した情報収集法について」 講師：鳥取県立図書館職員 会場：鳥取県立図書館 ・参加者 42名 					
(2)夢・実現スタートアップ創業勉強会					
県内の図書館と連携して勉強会を開催した。					
<ul style="list-style-type: none"> 対象 創業を検討している者 内容 ビジネスに役立つ図書館の活用法、創業の心構え、準備について 講師 鳥取県よろず支援拠点職員、図書館職員、I N P I T鳥取知財総合支援窓口職員 					
開催日	10月15日	10月22日	10月29日		
会場	鳥取県立図書館	倉吉市立図書館	米子市立図書館		
参加者	4名	8名	7名		
(3)県内の産業支援イベントでの出前図書館の実施					
商工労働関連研修会、イベントでの出前図書館等の実施(6回)					
(4)各種相談会の実施					
ア 知財・ビジネス合同相談会の定期開催					
<ul style="list-style-type: none"> 対応者：県立図書館司書、I N P I T知財総合支援窓口コーディネーター、弁理士、鳥取県よろず支援拠点の相談員 内容：知財・ビジネス情報の検索(司書)、知財(I N P I T知財総合支援窓口コーディネーター)、弁理士、経営相談(鳥取県よろず支援拠点相談員) 会場：県立図書館 ・実施回数：11回 ・相談者：19名 					
イ 起業・経営なんでも相談会/創業融資相談会の定期開催					
<ul style="list-style-type: none"> 対応者：鳥取県中小企業診断士協会の中小企業診断士、日本政策金融公庫の職員 会場：県立図書館 ・実施回数：11回 ・相談者：22名 その他：県立図書館司書が相談内容に応じて資料を事前準備。 					
ウ 就農相談会の定期開催					
<ul style="list-style-type: none"> 対応者：鳥取県農業経営・就農支援センター職員 会場：県立図書館 ・実施回数：3回 ・相談者：6名 その他：県立図書館司書が相談内容に応じて資料を事前準備。 					
(5)県立図書館と産業支援機関との連携事業					
ア 高校生ビジネスプラン作成講座の開催(日本政策金融公庫との共催)					
「高校生ビジネスプラン・グランプリ」(主催：日本政策金融公庫)の募集時期に合わせて実施。					
<ul style="list-style-type: none"> 対象：県内の高校生、高専生(1～3年生のみ) 内容：ビジネスプランの作成、図書館活用講座・館内見学 					
開催日	8月7日	8月8日			
会場	米子市立図書館	鳥取県立図書館			
参加者	4名	6名			
イ 企画展示「鳥取県認定グリーン商品リレー展示2025」の開催					
循環資源を活用した製品の展示物とともにグリーンイノベーション・SDGs・カーボンニュートラルなどとリンクさせ、関連図書等を図書館で展示した。					

展示物	鳥取県認定グリーン商品の实物展示、紹介パネルの展示など	
主催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会	
展示館	10館(県立1館、高等学校6館 市町村立図書館4館)	
期間	令和7年10月1日(水)～令和8年2月13日(金)	
	展示館	展示期間
	(県立図書館)	
	鳥取県立図書館	令和7年10月1日(水)～10月30日(金)
	(学校図書館)	
	鳥取商業高等学校	令和7年9月25日(木)～10月23日(木)
	米子工業高等学校	令和7年10月2日(木)～10月30日(金)
	鳥取盲学校	令和7年10月24日(金)～11月7日(金)
	皆生養護学校	令和7年12月24日(水)～1月28日(水)
	倉吉西高等学校	令和7年12月3日(水)～12月17日(水)
	米子松蔭高等学校	令和7年11月27日(木)～12月25日(木)
	(市町村立図書館)	
	大山町立図書館	令和7年10月31日(金)～11月28日(金)
	琴浦町立図書館	令和7年11月12日(水)～11月26日(金)
	岩美町立図書館	令和8年1月15日(木)～1月30日(金)
	日南町図書館	令和8年1月16日(金)～2月13日(金)

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 「新規就農者のための情報収集セミナー」の開催

成果 参加者へ最新のビジネス情報の収集方法を学んでいただけた。また、事例発表を通じ就農を目指す方への情報支援につながった。企画段階から関係機関と連携し集客することができた。図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。

(2) 夢・実現スタートアップ創業勉強会

成果 参加者へ創業のノウハウを学んでいただけたことに加え、関係機関との連携が強化できた。また、図書館が情報収集に役立つ場であることを効果的にPRできた。

創業や経営改善がみられた会社等

年度	成果
令和3年度(第1回目)	創業：アイメモリア株式会社(葬儀業) 創業：ツキノアカリ(エステ) 創業：稲妻飯店(飲食店・台湾料理)
令和4年度(第2回目)	経営改善：オフィスモリ(整理収納アドバイザー)
令和5年度(第3回目)	創業：INABACOLA(飲食店・クラフトコーラ) 創業：青木建築(建築業・個人事業主) 創業：うるまみーやみゅーじあむ(絵・アクセサリ・漫画のネット販売)
令和6年度(第4回目)	創業：ここな会(一般社団法人・病院内のレストラン) 創業：てんぷらとお酒のお店 日々の(居酒屋) 創業：生姜せんべい「お菓子 とわ」(お菓子屋)

(3) 県内の産業支援イベントでの出前図書館の実施

成果 貸出のほか図書館の活用法についても説明を行い、新規利用登録につなげることができた。

(4) 各種相談会の実施

成果 継続的に相談会や各種行事を行うことで、着実に創業や経営に必要な情報を提供でき、図書館のアドバースを活用してビジネスを立ち上げた事例が生まれ、地域企業の創業や経営を後押しできた。

相談会を経て創業された会社等

参加年度	成果
令和5年度	創業：のとう接骨院（接骨院） 創業：リホイミ（リラクゼーション） 創業：スプーンミール（配食サービス） 創業：すずめ堂（雑貨販売） 創業：うねるま食堂（弁当販売）
令和7年度	創業：エアクリーン鳥取（エアコンなどのクリーニング）

(5) 県立図書館と産業支援機関との連携事業

成果 高校生ビジネスプラン作成講座を当館のほか米子市立図書館会場でも開催することで、西部地区の高校生にもビジネスアイデアの発想法や図書館の活用法について学ぶ機会を提供できた。また特別支援学校の生徒の参加もあり、普通科高の生徒とともに課題解決型の図書館活用について学んでいただける機会を提供できた。

【全体の課題】

- ・県内全域で図書館のビジネス支援機能の認知度を高めて活用を推進するため、さまざまな切り口で県内図書館や学校図書館での関連展示の実施やセミナー等の実施を行い、地域メディアやSNSの活用により、さらに情報発信に努める必要がある。
- ・図書館であらゆる業種のサポートができるよう、各関係機関との連携を継続して行い、支援機能の充実を目指す。
- ・ビジネス支援サービスを継続するために必要な専門性を高め、人材育成に努める必要がある。市町村立図書館と講座やセミナー、出前図書館等を連携して実施するなどしてビジネス支援サービスのノウハウ等の情報共有を進めていく。

事業名	郷土情報発信事業			評価	B
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等					
(単位：千円)					
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額
1,400	0	1,400	1,400	0	0
<p>1 主な事業の実施状況</p> <p>(1) ふるさとの歴史再発見事業</p> <p>ア 《とっとり県民の日関連行事》令和7年度鳥取県立図書館特別資料展 「戦後80年 県民の継承のいとなみ — 戦争体験の想起とこれからの伝承 —」 内 容：戦後80年を迎え、戦争体験者が一人もいなくなる社会が近づきつつある今、戦争を語り継いでいくことの重要性が改めて問われている。新聞資料や体験談等の文集・記録をはじめとした地域資料等から体験者の記憶をたどり、戦争の記憶とこれからの伝承の営みについて発信する展示会を開催した。 会 期：令和7年8月13日(水)～9月23日(火) 開館日数：38日 来場者数：1,135人(平均：29.9人/日)</p> <p>イ 鳥取県の昔話を聞く会の開催 毎月第4土曜日に開催した。(参加者：延べ264名)</p> <p>(2) 郷土文学者情報発信事業 令和4～6年度の古文書講座で学んだ技術をもとに、「とっとりデジタルコレクション」で公開している、くずし字で書かれた古文書『やつれみのの日記』の翻刻に取り組んだ。 開催日：2月20日(金)、25日(水) 参加者：県立図書館職員5名</p> <p>(3) 地域資料データベース等サービス事業 日本海新聞の記事を検索・閲覧できる環境を整備した。 ・日本海新聞記事検索サービス及びマイクロフィルム閲覧サービスの提供</p> <p>(4) 郷土資料による企画展示 鳥取県の歴史・文化・人物等や社会的な課題について、所蔵資料の展示を行った。(10回実施)</p> <p>2 事業の成果(改善状況)・課題等</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別資料展で当館が所蔵する戦争に関する資料等を紹介し、1,000人を超える来場者があった。水木しげる氏の直筆原稿(鳥取県立図書館所蔵)や日本赤十字社鳥取県支部の救護班に関する資料(日本赤十字社鳥取県支部蔵)、小学生が作成した戦禍を伝える紙芝居(大山町立図書館蔵)などを展示し、戦時下の鳥取や戦争体験の伝承活動等を知っていただく機会となった。 ・『やつれみのの日記』を解説し、その成果である翻刻(活字版)の作成に着手した。翻刻は、とっとりデジタルコレクションで公開することを検討している。 ・郷土資料による企画展示のうち、水木しげるの展示は、鳥取県立美術館での展覧会の開催に合わせて実施し、展示した資料の貸出も多かった。展示を開始した6月には、デジタルアーカイブシステム「とっとりデジタルコレクション」で水木しげるの人物情報を検索する件数が増加した。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積を行い後世に伝えていくとともに、<u>県民が鳥取県に愛着や誇りを持てるような資料の活用を積極的・魅力的に行っていく必要がある。</u> ・<u>県内公共図書館・学校図書館、関係機関等と連携し、これまで当館が行った展示のパネル等を他の施設に貸し出すなどの方法により、県内全域に郷土情報の周知と活用を促進していく必要がある。</u> ・<u>郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、郷土資料のデジタル化と利活用の推進が必要である。</u> 					

事業名	市町村図書館等協力支援事業				評価	B
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等						
(単位：千円)						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額	
12,150	(2月)▲1,462	10,688	10,688	0	0	
1 主な事業の実施状況						
(1) 図書館へ行こう！キャンペーン						
秋の読書週間(10月27日～11月9日)に合わせ、当館と市町村立図書館、大学・高等専門学校図書館、専門図書館が共同で図書館利用促進に向けたキャンペーンを実施した。						
<ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：10月24日～12月24日 ・内容：図書館で体験メニューを設定し、体験数に応じて賞品をプレゼントした。 ・賞品・配布数：しおり4,640枚、しおりの代替品(シール)381枚、クリアファイル3,209枚、トートバック500枚(抽選、応募数2,985件) 						
(2) 図書館業務専門講座						
高度化・多様化する利用者のニーズに対応するため、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。第3回は3月18日に開催予定。また、下表以外に、新任職員のための図書館職員実務研修会や、希望する市町村立図書館の研修会への講師(当館職員)派遣を行った。						
区分	内容			開催日等	参加人数	
図書館経営	【テーマ】アメリカの公共図書館の先進事例から これからの図書館サービスについて考える 【対象】県内の公共図書館職員(主に管理職)、大学図書館職員、学校図書館関係者、図書館行政担当者			7月16日 ※オンライン 配信あり	47名	
地域課題解決支援	【テーマ】地域社会の情報と人をつなぐハブとしての紫波町図書館の取組 【対象】県内の公共図書館職員 等			2月18日 ※オンライン 配信あり	46名	
(3) 県内図書館の課題解決に向けた支援						
<ul style="list-style-type: none"> ・当館職員が希望する市町村立図書館の研修会に出向き研修を行った。(4自治体で4回実施) ・市町村立図書館等の依頼に応じ、当館職員が下表の附属機関等の委員を務めた。 						
附属機関等の名称				任期		
境港市図書館協議会				令和7年10月1日～令和9年9月30日		
境港市子どもの読書活動推進計画第3次計画策定委員				令和7年 7月1日～令和8年3月31日		
岩美町立図書館協議会				令和7年 4月1日～令和8年3月31日		
わかさ生涯学習館運営委員会				令和7年 4月1日～令和9年3月31日		
琴浦町図書館協議会				令和7年 6月5日～令和8年6月30日		
江府町図書館協議会				令和7年 4月1日～令和9年3月31日		
(4) 県立図書館資料等の配送・回収事業						
市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、資料相談を行った。						
<令和7年12月末までの市町村立図書館等への貸出冊数>						
支援先	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年12月末		
市町村	53,884冊	54,317冊	51,576冊	36,837冊		
高等学校	23,383冊	20,222冊	16,981冊	13,905冊		
特別支援学校	12,862冊	13,749冊	11,906冊	9,303冊		
病院図書室	2,185冊	3,536冊	3,992冊	4,020冊		
大学・団体・その他	3,336冊	3,136冊	4,375冊	3,861冊		
合計	95,650冊	94,960冊	88,830冊	67,926冊		

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 改善等に取り組んだ点

- ・「図書館へ行こう！キャンペーン」において、広報期間の確保や過去2年間のアンケート結果等を踏まえた景品の製作、キャンペーン参加館との緊密な連携等を行った。
- ・鳥取県公共図書館協議会において県内図書館の人材育成について取り上げ、当館の研修の在り方について市町村立図書館のニーズの把握を行い、研修のテーマや実施方法等に反映させた。

(2) 成果

- ・「図書館へ行こう！キャンペーン」において、(1)のとおり取り組んだことや同キャンペーンの認知度が上がったことから、前年比で景品配布数や抽選応募数が増加した。県内図書館で共同実施したことにより、住民がこれまで利用してこなかった館種の図書館を利用する機会ができ、新規利用者の獲得につながったという声が複数の参加館から寄せられた。また、参加者からは図書館の利用頻度が増えたという声も寄せられた。

	1つ目の景品	2つ目の景品	抽選応募数
令和6年度	3,551個	2,181個	1,860件
令和7年度	5,012個	3,209個	2,985件

- ・市町村立図書館の要望等に応じて継続的にハイブリッド方式で研修を実施していることにより、引き続き遠隔地の図書館の参加や1館からの複数名の参加が維持されている。

(3) 課題

- ・市町村立図書館と連携し県全体のより良い図書館サービスの提供を推進するため、図書館訪問の回数を増やし、ニーズを把握することが必要である。
- ・電子図書館サービス等新たな課題について、国の動向や他自治体の動向を注視し、県内公共図書館で情報共有しながら共同で研究を進め、対応していく必要がある。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるよう、市町村立図書館と協力して図書館のサービスや機能を広く県民にPRする必要がある。

事業名	図書館国際交流事業				評価	B																																
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等																																						
(単位：千円)																																						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額																																	
4,614	0	4,614	4,614	0	0																																	
<p>1 主な事業の実施状況</p> <p>(1) 環日本海交流室開室 30 周年記念事業(以下、「30 周年記念事業」という)</p> <p>環日本海交流室開室 30 周年を記念し、以下の事業を実施した。</p> <p>ア 企画展示「環日本海交流室 開室 30 周年～ありがとう 30 年 そして これからも共に～」</p> <p>(ア) 期間・場所 令和 7 年 10 月 10 日(金)～12 月 27 日(土) 県立図書館 2 階通路ギャラリー 令和 7 年 11 月 14 日(金)～12 月 27 日(土) " 1 階ロビー</p> <p>(イ) 主な展示内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環日本海交流室・国際交流ライブラリーのあゆみ ・環日本海諸国との図書交換事業の紹介 ・鳥取県と環日本海諸国の交流のあゆみ ・日韓交流の契機となった「漂流朝鮮人之図」 ・利用者から募集した開室 30 周年を祝うメッセージ <p>イ 多文化を知るイベント「図書館で「おとなりの国」を知ろう！」</p> <p>(ア) 「中国」を知ろう！</p> <p>a 日 時 令和 7 年 12 月 14 日(日) 午前 10 時から午前 10 時 45 分まで</p> <p>b 講 師 金香蘭(キン コウラン)氏 (鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局交流推進課国際交流員)</p> <p>c 内 容 中国語と日本語による絵本の読み聞かせ、中国の文化紹介</p> <p>d 対 象 小学生以上から大人まで</p> <p>e 参加者数 42 名(大人 29 名、子ども(1～9 歳) 13 名)</p> <p>(イ) 「韓国」を知ろう！</p> <p>a 日 時 令和 7 年 12 月 14 日(日) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで</p> <p>b 講 師 成(ソン)ハンピッ氏 (鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局交流推進課 国際交流員)</p> <p>c 内 容 韓国の食文化や習慣などの韓国の文化紹介</p> <p>d 対 象 小学校高学年以上から大人まで</p> <p>e 参加者数 30 名(大人 27 名、子ども(6～11 歳) 3 名)</p> <p>ウ 環日本海交流室シールラリー</p> <p>(ア) 期 間 令和 7 年 11 月 14 日(金)～12 月 27 日(土)</p> <p>(イ) 内 容 ・「環日本海交流室の資料を借りる」、「開室 30 周年関連の展示を見る」、「多文化を知るイベントに参加する」のいずれか 2 つをクリアした方に記念品(缶バッジ)をプレゼントした。 ・資料の貸出については、シールラリーで環日本海交流室を初めて利用する方にも楽しく借りてもらえるように「本の福袋」を用意した。</p> <p>(ウ) 参加者数 延べ 191 名(シール台紙配布枚数から推計)</p> <p>(2) 図書交換事業</p> <p>協定を締結している環日本海諸国の図書館との図書交換を実施した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">中国河北省</th> <th colspan="2">韓国江原道</th> <th colspan="2">ロシア沿海地方</th> <th colspan="2">モンゴル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">河北省図書館</td> <td colspan="2">春川市立図書館</td> <td colspan="2">・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館</td> <td colspan="2">中央県 D. ナツァグドルジ記念公共図書館</td> </tr> <tr> <td>送付</td> <td>受領</td> <td>送付</td> <td>受領</td> <td>送付</td> <td>受領</td> <td>送付</td> <td>受領</td> </tr> <tr> <td>3 月予定</td> <td>未</td> <td>3 月予定</td> <td>72 冊</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>20 冊</td> <td>20 冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ロシア沿海地方(ゴリキー図書館、児童図書館)については、県がロシアとの交流を凍結しているため、送付を見送った。</p> <p>(3) 関係諸国の資料整備</p> <p>環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入 (図書 645 冊、雑誌 36 種、新聞 4 紙(令和 7 年 12 月時点))</p>							中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル		河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県 D. ナツァグドルジ記念公共図書館		送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領	3 月予定	未	3 月予定	72 冊	—	—	20 冊	20 冊
中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方		モンゴル																																
河北省図書館		春川市立図書館		・ゴリキー図書館 ・沿海州児童図書館		中央県 D. ナツァグドルジ記念公共図書館																																
送付	受領	送付	受領	送付	受領	送付	受領																															
3 月予定	未	3 月予定	72 冊	—	—	20 冊	20 冊																															

(4) 国際交流ライブラリー企画展示

- ・ 国際交流に関する企画展示
- ・ 鳥取県が交流している国や地域に関する企画展示(県交流推進課、国際観光課と連携)
- ・ 英語多読に関する企画展示
- ・ ピーナッツコレクションに関する企画展示

2 事業の成果(改善状況)・課題等

(1) 成果

- ・ 30周年記念事業の企画展示では、鳥取県と環日本海諸国との交流のあゆみや環日本海交流室の取り組み等を知っていただく機会となり、環日本海交流室への来室につながった。また、開室30周年の記念メッセージを募集し、子どもや大人から90枚ものメッセージが寄せられた。
- ・ 多文化を知るイベントは、中国と韓国を取り上げ、外国語と日本語による絵本の読み聞かせや文化紹介、民芸品や関連本の展示を実施し、県民の国際理解や環日本海諸国への関心を深める機会となった。
- ・ 環日シールラリーでは、環日本海交流室の資料を借りることを要件の一つとしたことから、環日本海交流室の資料の利用促進につながった。
- ・ 環日本海諸国との交換図書継続実施や外国語図書の専門店(東京)での現物選書等により、外国語図書の充実に取り組み、利用者及び市町村立図書館、学校図書館等にも貸出を行った。

(2) 課題

- ・ 環日本海交流室・国際交流ライブラリーが、多文化理解や県内在住外国人との交流の拠点となるよう、国際理解を深めるための行事等を開催し、さらなる利用の促進を図るとともに、市町村立図書館や関係課・関係団体と協力し、レファレンスや資料提供、外国語学習等の支援の充実に努める必要がある。
- ・ 環日本海諸国に係る資料や情報の収集と充実に努め、県内在住外国人の支援及び県民の国際理解を促進するため、ホームページ等を活用した情報発信を行う必要がある。
- ・ 所蔵する英語資料を活用し、英語への興味関心を高めるための工夫や取組を行う必要がある。

事業名	図書館運営費				評価	A
施策の実施状況、成果・進捗状況・問題点等						
(単位：千円)						
当初予算額	補正等予算額	予算現額	支出見込額	翌年度繰越額	不用額	
303,602	(2月)▲24,721	278,881	278,881	0	0	
1 主な事業の実施状況						
○ 図書及び逐次刊行物の整備充実						
県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物については広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。						
<資料の整備状況> (単位：冊)						
区分	令和6年度末冊数	購入等(寄贈含む)	除籍	計	令和7年度12月末冊数	
蔵書合計	1,299,896	17,715	1,882	15,833	1,315,729	
内訳	一般	893,994	11,803	1,384	10,419	904,413
	郷土	159,532	2,205	18	2,187	161,719
	児童	134,789	2,331	200	2,131	136,920
	協力	87,939	836	74	762	88,701
	その他	23,642	540	206	334	23,976
2 事業の成果(改善状況)・課題等						
(1) 令和7年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県政・地域の課題への対応や県民の豊かな暮らしをサポートするため、ビジネス支援や医療・健康情報サービスなどの課題解決型サービス実施のための資料の充実を図った。 ・ 人の成長・学びを支えるための子どもの読書推進、学校図書館支援、生涯学習を支援するための資料の充実を図った。 ・ 不要となった資料の廃棄を進め、書庫の整理を進めた。 						
(2) 成果及び効果						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍サービスにより、遠隔地居住者の利便性の向上や図書館利用に困難のある方などの読書バリアフリー環境の充実を図った。 ・ 市町村立図書館では持つことの困難な専門書・技術書など多様な内容の資料を収集することにより、県民が必要とする資料の提供を行った。 ・ 探究学習や総合的な学習などに活用できる資料の貸出により、学校図書館支援を行った。 						
(3) 課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍サービスの一層の周知を図り、利用の拡大に努める必要がある。 ・ 多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら最新の資料を幅広く収集する必要がある。 ・ 郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。 ・ 今後の資料増加に対応するため、引き続き要資料の除籍を計画的に進める必要がある。 						